

会長挨拶

平素から本会の業務運営につきまして多大なるご理解とご支援を頂いておりますことに
対し、厚く御礼申し上げます。

近年、地球温暖化が深刻な環境問題としてクローズアップされ、国が2050年ネット・ゼロの実現を目指している中、CO₂を吸収・固定する森林・木材には大きな期待が
寄せられています。

CO₂の吸収・固定量を確保していくためには、「伐って」「使って」「植えて」「育て
る」森林資源の循環利用を確立することが大前提となります。そして、利用可能な一定の
森林資源の基盤が整ってきた今、このサイクルの始まりの「伐って」を回していくのは、
主に私たち素材生産業に携わる者の役割です。循環利用の輪を回していくためには、ただ
「伐る」だけでなく、安定的な素材生産・供給によって「使って」につなげ、林地保全等
にも配慮したきちんとした仕事で「植えて」「育てる」につなげるようにしていくことが
必要です。

本会では、昨今、一部に経済的採算性のみを追求し品質の確保を蔑ろにするケースが散
見されることに危機感を持っておりますが、本会の会員である全国各地の素材生産(流通)
協同組合とその組合員は、素材生産業が果たすべき使命を十分認識し、森林所有者に対し
ても、木材加工事業者に対しても、品質の良い事業を提供することが森林施業者としての
理念と責務であると考えプロフェッショナルの事業体であると自認しております。

また、私たちの仕事は農山村地域をその活動基盤としており、事業の実施を通じて地域
の雇用を確保することで人口流出の防止を図り、地域産業の活性化に繋げることで集落を

維持していくことにも貢献しています。

本会は、令和6年に創立50周年を迎えることができました。この間、高性能林業機械の開発・普及が進んで効率的な伐採作業が可能になったほか、燃料材の需要が大きく伸びるなど、素材生産業を巡る情勢も大きく変わりました。

温暖化をはじめとする地球規模での環境問題は、社会の価値観にも大きな影響を与え、環境を創る基盤である森林を生業の場とする私たち素材生産業界にあっては、今や「環境」というキーワードを意識しない訳にはいかない状況となっています。この点では、経済界からもSDGsやTNFDなどの観点から森林や林業に対して大きな関心が寄せられつつあります。私たち素材生産業界も時代の変化を見極めて従来の枠組みにとらわれずに前向きに対応し、木材産業と環境産業のバランスをとりながら「持続性と成長の両立」を図って自立した業界体質を目指していきたいと考えています。

最後に、素材生産業界の長年の、そして最大の課題は、労働安全の確保であります。現状、労働災害の発生率が全産業平均の10倍に及ぶ状態を改善しない限り、素材生産業の未来は開けないと考えます。本会は、労働災害の撲滅に向けて業界の先頭を切って取り組む所存でありますので、関係の皆様の引き続きのご指導ご鞭撻をお願いする次第です。

全国素材生産業協同組合連合会

会 長 日 高 勝 三 郎